

けいはんな R&D イノベーションコンソーシアム

第3回総会 第二部 ご来賓挨拶より

新産業創造研究機構 (NIRO) 牧村理事長ご挨拶

新産業創造研究機構, NIRO の理事長・牧村でございます。この度は、けいはんな R&D イノベーションコンソーシアムへお招き頂き、厚く御礼申し上げます。

各方面から素晴らしい方々をご参加されている中、大変恐縮でございますが、一言ご挨拶申し上げます。

さて、現在の国内経済は一見順調にも見えますが、世界銀行が毎年1月に発表している

「世界経済見通し」を見ますと、今年の実質成長率予測は、世界全体で3.1%となっており、その内訳は、インドが7.3%中国が6.4%、米国が2.5%、ユーロ圏が2.1%であるのに対して、日本は1.3%と低迷しています。

これは、産業以外にも政治、外交、為替、長期金利、株式投資、労働人口、自然災害など様々な要因が絡み合った結果ですが、私ども産業界あるいは学術・教育界としては、真に成長する製品・サービス、さらには産業を育てることで、我が国経済の発展に資する役割を忘れてはなりません。

将来の製品、サービス、産業の育成については、いくつかの私見がございまして、その一つに、今日、明日、明後日、さらには、しあさってといった視点での企画構想が必要との考えがあります。すなわち「今日」は、現在に市場競争力がある製品・サービスやものづくりの力、「明日」はそれらの市場を発展させ衰退させない差別化、「明後日」は、新たな視点で市場を開拓していくイノベーション、そして、「しあさって」は、再生医療の本格化や将来のCO2フリーを目指した水素社会の構築のような例があると考えています。

私ども NIRO では、将来産業分野として「航空機、航空エンジン」、「環境・エネルギー」、「ロボット・AI」及び「健康・医療」の4分野を設定し、各分野について、「今日」、「明日」、「明後日」「しあさって」それぞれについての構想を想定して、技術支援を展開しています。

ここ、けいはんな学研都市は、我が国におけるイノベーションの重要な拠点であり、我が国の経済及び産業の発展に極めて重要な地域となっています。特に、本日の会を主催されている「RDMM 支援センター」は、企業や大学、公的機関等の連携によるオープンイノベーションを基軸に、研究開発から事業化までをワンストップで支援する、イノベーション創出連携のハブ組織の役割を担っておられます。例えば、昨年、「けいはんな公道走行実証実験プラットフォーム」の実験運用を開始されたことは特筆すべきことであり、将来の新しいモビリティ社会構築のための貴重な成果を上げられるものと考えています。

また、将来産業の構築には、素晴らしい技術をどのように使えるかといったシーズ展開型の企画構想よりも、将来どのような社会にしたいか、どのような社会になりたいかといった、いわゆるニーズを基に最適なシーズを構築することで構想実現を行う考え方が重要だと考えています。そのためには、産学連携が欠かせないわけですが、単なる産学連携ではなく、住民の皆様によるサポーター組織「Club けいはんな」による生活者目線を加えた産官学住の考え方は素晴らしいと思います。これは先の実証実験プラットフォームで実現を目指す、新しいモビリティ社会において、価値(メリット)を享受する住民の方々の意見を積極的に取り入れることにつながり、企業の製品が機能増加を主体とした差別化から顧客満足を基にしたサービスの開発へ変化するような、いわゆる「もの」から「こと」への変革を加速する取り組みでもあると思います。

私ども NIRO では、研究開発の経験のみならず、十分な事業経験を持ったコーディネーターが、事業の出口をしっかりと見据えて、産学官のネットワークを構成している方々と有機的に連携して将来産業を育成することを基本としています。

これを NIRO 式のネットワーク型コラボレーションと呼び、活動を展開していますが、イノベーション創出のハブ組織である「RDMM 支援センター」とは、今後も積極的な連携によるシナジー効果を期待しています

本日の公開セミナーでは、我が国のイノベーションの重要拠点としての「けいはんな R&D イノベーションコンソーシアム」活動状況のご説明を通じて、我が国の将来産業への貴重な示唆をいただけるものと思います。

最後に、本セミナーの開催に当たり、ご尽力をいただきました関係各所の皆様に深く感謝の意を表しますとともに、本セミナーがご参加の皆様にとりまして実り多いものとなることを祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

公益財団法人新産業創造研究機構

理事長 牧村 実